



坂野中学校の閉校にあたって

第34回卒業生 西 照 保 彦

坂野中学校の閉校にあたって、時代の流れでどうしようもないと思う反面、坂中時代のことを思い出し笑顔になったり、困った顔にもなったり複雑な心境で何とも言えない寂しい気持ちではありますが、小松島南中学校として新しい歴史が開かれることをうれしく思います。

私が入学したのは、昭和53年で生徒数は133人くらいだったと思いますが、小学校と比べ生徒数は約3倍にもなり、友達も増えるとともに、徒歩通学から自転車通学に変わり、小学校にはなかったクラブ活動も始まり、何もかもが新鮮で、中学校生活は私にとって、一気に大人の世界に突入したような時期であったように記憶しています。

中学校3年間で一番に思い出されるのは、クラブ活動もそうですが、何と言っても「校歌」の練習です。

1、「久遠の光天地に満ちて 阿南の沃野坂野町ここに

知識の泉は音にたちてわく 学びの園の坂野中学」

2、「百花の香りにおいも妙に きそい生いたつ青少年の

腕と知識の果てもしられず 学びの園の坂野中学」

3、「自然のめぐみ豊けき愛の 心のいとひびきゆかしく

おとこおみなのけじめはあらず 学びの園の坂野中学」

4、「槌の音こつこつさえてぞきこゆ 日々にきざめるのみのあとしるく

今日はあしたの歴史をつくる 学びの園の坂野中学」

この「校歌」当時の私にとっては非常に難しく、入学当時音楽の井内光子先生から、何度も繰り返し指導を受けたことが強く思い出されます。小学校、中学校、高校、大学と、私の母校の校歌の中では、一番練習もしましたし、おかげで今でもすぐに口ずさむことができます。

今の私があるのも、この坂野中学校で学ぶことができたからです。坂野中学校で学んだ友人や先輩、後輩、先生方には感謝の思いでいっぱいです。閉校後は校舎等の施設は順次撤去されることになると思いますが、母校の思い出はこの「校歌」とともに私の中では永遠です。

小松島南中学校の開校に伴い、坂野中学校の在校生の皆さんは期待と不安でいっぱいだと思いますが、部活動や勉強で競う仲間が増え、自分をより高めることができる機会ととらえ、坂野中学校のよき伝統を引き継ぎながら、小松島南中学校としての新たな伝統を築いていって下さい。